

国語科を中核に各教科等で「言語活動の充実」をはかるための資料 活用の手引き

国語科を中核に全教科で取り組む“言語活動の充実”は、国語科との学習と各教科等の学習とが有機的につながることを目指している。思考力等の育成に資する“言語活動の充実”の実現を目指して、次の3つのステップで、各学校の実態に応じた資料を作成することができる。

- 1 学習指導要領に示された各領域の言語活動例を、それを通して身に付けさせる指導事項、指導上の留意点とあわせて、系統立てて確認する。
- 2 1で確認したことを、国語科のどの単元で学習させるのか、明らかにし、実行する。
- 3 国語科で学習したことが、各教科等のどの学習の言語活動で生かせるのか明らかにし、実行する。

1 学習指導要領に示された各領域の言語活動例を、それを通して身に付けさせる指導事項、指導上の留意点とあわせて、系統立てて確認する。

「話すこと・聞くこと」の言語活動

I 目標—育てる言語能力等—

	第1・2学年	第3・4学年	第5・6学年
話すこと・聞くこと	相手に応じ、身近な話すことなどについて、事柄の順序を考えながら話す能力、 大事なことを落とさないように聞く能力、 話題に沿ってし合う能力を身に付けさせるとともに、 進んで話したり聞いたりしようとする態度を育てる。	相手や目的に応じ、調べたことなどについて、筋道を立てて話す能力、 話の中心に気を付けて聞く能力、 進行に沿って話し合う能力を身に付けさせるとともに、 工夫をしながら話したり聞いたりしようとする態度を育てる。	目的や意図に応じ、考えたことや伝えたいことなどについて、的確に話す能力、 相手の意図をつかみながら聞く能力、 計画的に話し合う能力を身に付けさせるとともに、 適切に話したり聞いたりしようとする態度を育てる。

II 指導事項

	第1・2学年	第3・4学年	第5・6学年
話題設定・取材	・ 身近なことや経験したことなどから話題を決め、必要な事柄を思い出すこと。	・ 関心のあることなどから話題を決め、必要な事柄について調べ、要点をメモすること。	・ 考えたことや伝えたいことなどから話題を決め、収集した知識や情報を関係付けること。
話すこと	・ 相手に応じて、話す事柄を順序立て、丁寧な言葉と普通言葉との違いに気を付けて話すこと。 ・ 姿勢や口形、声の大きさや速さなどに注意して、はっきりした発音で話すこと。	・ 相手や目的に応じて、理由や事例などを挙げながら筋道を立て、丁寧な言葉を用いるなど適切な言葉遣いで話すこと。 ・ 相手を見たり、言葉の抑揚や強弱、間の取り方などに注意したりして話すこと。	・ 目的や意図に応じて、事柄が明確に伝わるように話の構成を工夫しながら、場に応じた適切な言葉遣いで話すこと。 ・ 共通語と方言との違いを理解し、また、必要に応じて共通語で話すこと。
聞くこと	・ 大事なことを落とさないようにしながら、興味をもって聞くこと。	・ 話の中心に気を付けて聞き、質問をしたり感想を述べたりすること。	・ 話し手の意図をとらえながら聞き、自分の意見と比べるなどして考えをまとめること。
話し合うこと	・ 互いの話を集中して聞き、話題に沿って話し合うこと。	・ 互いの考えの共通点や相違点を考え、司会や提案などの役割を果たしながら、進行に沿って話し合うこと。	・ 互いの立場や意図をはっきりさせながら、計画的に話し合うこと。

III 言語活動（例）

1 説明・報告

	第1・2学年	第3・4学年	第5・6学年
概要	事物の説明や経験の報告をしたり、それらを聞いて感想を述べたりする。	出来事の説明や調査の報告をしたり、それらを聞いて意見を述べたりする。	資料を提示しながら説明や報告をしたり、それらを聞いて助言や提案をしたりする。
指導上の留意点	<ul style="list-style-type: none"> ○ 話すこと・聞くことの一体的指導 <ul style="list-style-type: none"> ・ 説明や報告をすること（話すこと）と、それらを聞いて感想を述べる（聞くこと）とを一体化して指導する。 ○ 「事物の説明」の指導 <ul style="list-style-type: none"> ・ 身の回りの事柄やものを取り上げる。 ・ 話すことを幾つかに絞らせる。 (例) その事物が生活の中でどのような役割を果たしているのか、そのためにどのような構造になっているのかなど ・ 実際の説明では、必要に応じて原因や理由を付け加えながら事柄を順序立てたり、相手に分かりやすいように事物そのものを見せたりするなどの工夫をさせる。 ○ 「経験の報告」の指導 <ul style="list-style-type: none"> ・ 学級や学校、家庭や地域での経験を取り上げる。 ・ 経験したことによってどのようなことを感じたのか、知らせたいことは何なのかを明確にさせる。 ・ 経験したことが生き生きと伝わるように内容を思い出させる。 ・ 時間の経過に基づいて順序立てる。 ○ 聞き手の指導 <ul style="list-style-type: none"> ・ 話し手の思いや願いに共感しながら聞き、感想をもつよう導く。 ・ 聞いたことを整理して相手に伝える。 * 聞き手は自分の考えを一層明確にすることができ、話し手は話そうという意欲を喚起される。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 話すこと・聞くことの一体的指導 <ul style="list-style-type: none"> ・ 出来事の説明や調査の報告をしたり、それらを聞いて自分の意見を述べたりする。 ○ 「出来事の説明」の指導 <ul style="list-style-type: none"> ・ 学校や地域での催し、季節にちなんだ行事などを取り上げる。 (例) 日常生活の中に根付いている文化的な催しなどの歴史や意義、その運営や人々の参加の様子についてまとめて、説明する。 ・ 説明される者や説明する者の状況に応じた指導をする。 (例) 催しなどの内容を知っている人に話す場合と知らない人に説明する場合。児童自身がその催しなどに参加している場合と本や文章などで調べただけの場合などがあることに注意。 ・ 情報活用能力の育成の面からも、録音や録画の機器を積極的に活用する。 ○ 「調査の報告」の指導 <ul style="list-style-type: none"> ・ 関心のあることや、各教科等で行う観察や実験、調査などを取り上げる。 ・ 調査の目的に合った調べ方を選ばせる。 (例) 観察や実験の経過や成果、本、インタビュー、アンケートなど。 ・ 報告するときには、調査の目的や方法、調べたときの記録を生かし、結果や成果とともに分かったことや考えたことを明確にさせる。 ・ 情報活用能力の育成の面からも、録音や録画の機器を積極的に活用する。 ○ 聞き手の指導 <ul style="list-style-type: none"> ・ 話し手がどのような課題について調べ、分かったことや考えたことをまとめているかに気を付けて、その内容や、説明や報告の仕方の分かりやすさなどについての意見をまとめさせる。 ・ 意見をまとめるために、話の要点、気付いたことや連想したことなどをメモさせる。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 話すこと・聞くことの一体的指導 <ul style="list-style-type: none"> ・ 相手に対して説明や報告をするときに資料を提示しながら発表したり、それらを聞いて助言や提案をしたりする。 ○ 資料の選択や作成、活用の指導 <ul style="list-style-type: none"> ・ 準備した説明や報告の発表原稿にふさわしく、相手の理解を深められるような資料の提示、適切な資料の選択や作成、それらを活用した話し方を指導する。 ・ 資料としては、本や文章、実物や映像、リーフレットやパンフレット、図表などから適切なものを用いる。 ・ 話す内容と資料との整合、適切な時間や機会での資料の提示、スピーチ原稿や資料への目配りの仕方、相手の反応などに注意した話し方を指導する。 ・ コンピュータのプレゼンテーションソフトなどを利用して発表させることも考えられる。 ○ 「聞き手の指導」 <ul style="list-style-type: none"> ・ 内容を理解し、自分の考えと比べて自分の考えを明確にしたり、話し手の立場に立って助言や提案したりすることができるようにする。 ・ 説明や報告の内容と、資料を提示しながら話す説明や報告の仕方との両面に対する助言や提案を考えさせる。 <p>2 1で確認したことを、国語科のどの単元で学習させるのか、明らかにし、実行する。</p> <p>3 国語科で学習したことが、各教科等のどの学習の言語活動で生かせるのか明らかにし、実行する。</p>

	第1学年	第2学年	第3学年	第4学年	第5学年	第6学年
国語科教材						
他教科等での活用場面						

2 1で確認したことを、国語科のどの単元で学習させるのか、明らかにし、実行する。

3 国語科で学習したことが、各教科等のどの学習の言語活動で生かせるのか明らかにし、実行する。



